

●外国語科目の履修について

法学部学生が履修するものとされる総合基礎科目の外国語は、次のように分けられている。

＜英語＞：英語の課程には、通常クラス及びインテンシヴ・クラスがある。

○通常クラス

G 英語セミナー 4				
C	英語コミュニケーション (C) (上級特)	2	F 英語リーディング (R) (上級特)	2
B	英語コミュニケーション (C) (上級)	2	E 英語リーディング (R) (上級)	2
A	英語コミュニケーション (C) (中級)	2	D 英語リーディング (R) (中級)	2
			H 英語ベーシック (B) (初級)	2

A：英語コミュニケーション (C) (中級)

高校英語の普通課程修了者を対象とし（原則として海外における学校教育の経験者を除く）、オーラルとライティングを含む総合教材を用いてコミュニケーション能力の養成をめざす。

B：英語コミュニケーション (C) (上級)

英語中級単位修得者を対象とし、社会生活に必要な程度の英語表現力を身につけることを目標とする。オーラル (LL を含む)、ライティングなどのクラスを設ける。

C：英語コミュニケーション (C) (上級特)

英語中級修得者を対象として、英語によるスピーチ、ディスカッションなどを習得することを目標とする。

D：英語リーディング (R) (中級)

高校英語の普通課程修了者を対象とし、センテンス・パラグラフ・文章の意味内容、文化背景・言語習慣の相違の把握などを通じて、英語によるリーディング・ハビットを定着させ、語彙・英語知識の増大を図る。また、表現に留意し、読書を通じての自己表現能力を養成する。時事英語などのクラスを設けることがある。

E：英語リーディング (R) (上級)

英語中級を修得済みの者を対象とし、論説・論述などを教材として、リーディング能力の向上、語彙・英語知識の増大を図る。

F：英語リーディング (R) (上級特)

海外での学校教育経験者、留学希望者、英語を生かす職業への就職希望者などを対象とする。テキストを理解し、内容を英語でディスカスすることを目標とする。

G：英語セミナー (4 単位)

英語上級または上級特を 4 単位以上取得した学生を対象とし、その読解力・表現力をさらに高めるためのクラスである。公務員試験その他の資格を得るため、また社会生活において英語を特技として生かしたい学生などのために、論説その他の読解、ディスカッション、トランスレーション等の技術を身に付けさせる。

H：英語ベーシック (B) (初級)

高校において英語以外の外国語を主として履修したものを対象とする。英語の基礎を固め、英語中級履修に向けて準備する。

○通常クラスの履修方法

1. 高校の英語普通課程修了者は、AとDを起点として履修を始めることを原則とする。特に認められた場合を除いて、Aのみを2クラス履修することはできない。
2. 入学試験の際にドイツ語又はフランス語で受験した者などで、英語力に不安を持っている者は、Hを起点として履修を始めることができる。Hは、同時に2クラスを平行履修することができる他、A又はDと組み合わせて履修することもできる。ただし、履修には許可が必要となるため、当該年度の『総合基礎科目シラバス』の「外国語科目履修の手引き」を熟読し、必要な手続を確認すること。
3. A及びDの履修に加えて、B、E、C、Fを同時に履修することができる。
4. A又はDの履修に代えて、B、E、C、Fを履修することができる。
5. 英語セミナーを履修するためには、特に認められた場合を除き、B、E、C、Fを4単位以上修得していなければならない。

★1年次においては全員が中級クラス（A、D）各1科目（計4単位分）を履修できるに足りるクラス数が用意され、英語能力試験の結果に基づく履修クラスの指定がなされる。

※「外国高等学校出身者および海外帰国生徒」対象入学試験により入学した学生についても上記同様の扱いとする。

◎法学科学生

☆英語（中級）の履修は4単位を上限とする。英語能力試験の結果に基づいて指定されたクラスに出席して単位を修得しなければならない。指定されたクラスでの履修を放棄する場合には、他の外国語科目を履修する等、外国語科目の選択必修12単位を充足しうるように計画的に履修をする必要がある。なお、クラス指定の詳細については、当該年度の『総合基礎科目シラバス』の「外国語科目履修の手引き」を参照すること。

☆英語（上級）、英語（上級特）については、履修希望クラスを政治学科、理学部および英語英米文化学科指定クラスを除き、自由に選んでよい。ただし、法学科指定クラスについては、優先的に履修登録する権利を与えられる。適切な数の法学科指定クラスを用意する予定である。

◎政治学科学生

☆英語8単位が選択必修であり、卒業までに修得しなければならない。なお、英語（中級）の履修は4単位を上限とする。

☆1・2年次は、各自指定されたクラスに出席して単位を修得しなければならない。指定されたクラスでの履修を放棄した場合には、時間割、履修制限等の関係で履修が困難になることがある。なお、不合格となって単位を修得できなかった場合には、外国語教育研究センターに相談の上、指定されたクラスを履修すること。

☆指定されたクラスが目標とする能力を既に習得している場合には、前項にかかわらず、各自でより上級のクラスに登録すること。

☆その他、クラスの指定方法、履修に関する手続きについては、当該年度の『総合基礎科目シラバス』の「外国語科目履修の手引き」を参照すること。

○インテンシヴ・クラス

1 英語インテンシヴ・コースは、国際人として通用する英語の実践的能力を養成するために設置されている英語コースである。履修希望者(2年次以上の学生も含む)に対して、4月初旬に選抜試験を行う。選抜試験によって英語インテンシヴ・コースへの出席を許可された学生は以下の規定に従って単位を取得すれば、コース修了時に修了証が与えられる。

2 履修方法

- (1) インテンシヴ・コースを修了するためにはインテンシヴ・クラスおよび通常クラスの科目の中から、合計8コマ20単位以上を履修しなければならない。
- (2) インテンシヴ・コースを修了するためには、インテンシヴ・クラスの科目のうち、「英語コミュニケーション(C)(ワークショップ)」と「英語リーディング(R)(テーマ・スタディ)」をそれぞれ、少なくとも2コマずつ、合計8単位以上履修しなければならない。
- (3) 選抜試験によって英語インテンシヴ・コースへの出席を許可された学生は、インテンシヴ・コースを修了しなくても、インテンシヴ・クラスを単独で履修することも可能である。
- (4) 取得したインテンシヴ・クラスの単位は通常クラスの単位と同じ扱いを受ける。

3 インテンシヴ・クラスの内容

英語コミュニケーション (C) (ワークショップ)	種々のAVメディア、テキストを用いて発信型の英語能力を多面的に養成するクラス。(外国人および日本人講師担当)	1コマ2単位
英語リーディング(R) (テーマ・スタディ)	言語、文化、社会、政治、経済、科学に関する講義および演習形式のクラス(主として外国人講師担当)	1コマ2単位

<ドイツ語・フランス語・中国語>

○ドイツ語・フランス語・中国語の課程



A：ベーシック (B) (初級) 未修者を対象とする。発音・文法の基礎を学ぶ。

B：コミュニケーション (C) (初級) 「読む、聞く、話す」の総合的基礎を養う。

ネイティブによる授業や LL を利用した授業を含む。

C：リーディング (R) (中級) 時事、政治、経済、文学、歴史、社会、科学などの分野の読解。

D：コミュニケーション (C) (中級) ヒアリング、作文、会話などの訓練。

ネイティブによる授業や LL を利用した授業を含む。

E：リーディング (R) (上級) 各言語の基本資料を素材にそれぞれの文化の特質を討論する。

F：コミュニケーション (C) (上級) 日常生活に密着した材料を用いて各国事情を考える。

G：外国語セミナー：演習形式で高度なテキストの読解をおこなう。一部、外国語による授業を含む。

○ドイツ語・フランス語・中国語の履修方法

1. A と B、B と C、C と D はそれぞれ平行履修することができる。
2. A 及び B は、それぞれを重複履修しても単位は認定されない。
3. C あるいは D を履修するためには、最低限 A か B を修得していなければならない。但し、既習者は、そのレベルに応じて、下位の科目の履修を省略することができる。
4. C、D、E、F 及び G は、それぞれ重複履修しても単位が認定される。
5. E、F、G を履修するためには、原則として C か D を修得していなければならない。

★法学部学生のドイツ語、フランス語、中国語の履修

☆初級については、法学部・経済学部学生優先のクラスが用意されている。

☆年度はじめにクラス分けを行うので、各自、希望するクラスを選択して申し込むこと。それぞれのクラスにつき、履修するための資格、定員等が定められているので、『外国語科目履修の手引き』および掲示等を参照すること。希望者多数の場合は、適切な方法により調整を行うことがある。

◎法学科学生は、1 年次において、1 種類の外国語を 2 科目履修することが望ましい。2 年次以降は関心に応じて履修すれば足りる。

◎政治学科学生は、自由科目であるので関心に応じて履修すれば足りる。

<ロシア語・スペイン語・イタリア語・朝鮮語・アラビア語>

○ロシア語・スペイン語・イタリア語・朝鮮語・アラビア語の課程

C：リーディング(R)(中級) 2	D：コミュニケーション(C)(中級) 2
A：ベーシック(B)(初級) 2	B：コミュニケーション(C)(初級) 2

A：ベーシック(B)(初級)

未修者を対象とする。発音と文法の基礎を学ぶ。

B：コミュニケーション(C)(初級)

「読む、聞く、話す」の総合的基礎を養う。

C：リーディング(R)(中級)

一定の内容のある文章の読解をめざす。

D：コミュニケーション(C)(中級)

初級をより発展させて「読む、聞く、話す」の向上をめざす。

○ロシア語・スペイン語・イタリア語・朝鮮語・アラビア語の履修方法

1. AとBは平行履修できる。
2. AおよびBはそれぞれ重複履修しても単位は認定されない。
3. C、Dの履修を希望するものは、それぞれA、Bの既習者であることがのぞましい。

★法学部学生のロシア語・スペイン語・イタリア語・朝鮮語・アラビア語の履修

法学科学生にとっては選択科目、政治学科学生にとっては自由科目であるので、関心に応じて履修すれば足りる。

これらの外国語のクラスは全学共通である。年度はじめにクラス分けを行うので、各自、希望するクラスを選択して申し込むこと。それぞれのクラスにつき、履修するための資格、定員等が定められているので、『外国語科目履修の手引き』および掲示等を参照すること。希望者多数の場合は、適切な方法により調整を行うことがある。

<日本語>

○履修科目

科 目	単位数	備 考
日本語コミュニケーション(C)(上級)	1 単位	
日本語コミュニケーション(C)(中級)	1 単位	
日本語コミュニケーション(C)(初級)	1 単位	協定留学生用クラス

○第 1 学期／第 2 学期開設科目

第 1 学期		第 2 学期	
C (上級) 1・2	C (上級) 3・4	C (上級) 5・6	C (上級) 7・8
C (中級) 1・2	C (中級) 3・4	C (中級) 5・6	C (中級) 7・8
C (初級) 1・2	C (初級) 3・4	C (初級) 5・6	C (初級) 7・8

日本語科目はいずれも週 1 回の半期科目である。

○履修科目の内容

コミュニケーション (C) (初級)

原則として、平仮名・片仮名、漢字 50 字程度の読み書きができることを前提として、基本的な語彙、文型、漢字を学習し、日常生活に最低限必要な日本語能力をつけることをめざす。(語彙 1500 語、基本的初級文型、漢字 300 字)

コミュニケーション (C) (中級)

日常生活において適切な言語行動がとれるようにする。一般的な会話能力、平易な文章の理解能力をつける。(語彙 6000 語、やや高度な文型、漢字 1000 字)

コミュニケーション (C) (上級)

複雑な場面をふくむ多様な場面において、適切な言語行動がとれるようにする。大学の授業、演習での発表、レポート作成に必要な技能の学習をめざす。(語彙 10000 語以上、高度な文型、漢字 2000 字以上)

○履修方法

1. 日本語を履修しうる学生は、協定留学生および特に認められたもののみである。日本語は随意科目となる。
2. C (初級) を履修することのできる学生は、原則として協定留学生だけである。
3. C (初級) および C (中級) は、並行して履修することができる。
4. C (中級) および C (上級) は、並行して履修することができる。